



No.117 2021.7.27

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

# コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

## ビックリ！！ “パワフル 江井島まちづくり協議会！！”



7月15日(木) 神戸新聞で「海の環境学習 成果を発表 江井島小で作品展」の記事があり、興味をそそられ取材に行ってきました。

この「江井島っ子！ わたしたちは海レンジャー」という作品展は現在4年生の子どもたちが、3年生の時の環境体験学習で地元漁協さんや地域ボランティアさんらの協力を得ながら行った地引網漁や海岸清掃の中で



関心を持ったテーマを画用紙にまとめたり、紙芝居としてまとめたりしたものを発表する場です。3年生のこの学習は先生方の個々の子どもたちの学びの可能性を広げる単元構想もしっかりしており、そこに地域の力が加われば鬼に金棒、学びの質が高まります。

そんな子どもたちの活動を見守られているまちづくり協議会のメンバーの方が、少しでも保護者の方や地域の方に子どもたちの学びの成果を見てもらえたらと作品展を企画されたものです。何よりビックリしたのが子どもたちの力作をより引き立てる海を連想させる装飾でした。その装飾も“こども夢文庫”や“江井島の海と子どもを守る会”のメンバーの方が“子どもたちを驚かせる”というコンセプトのもと知恵を絞り準備されたものです。

“江井島の海と子どもを守る会”というネーミングだけでも、こうした会がスタートし、活動されているのは江井島まち協さんのパワーだなと感じました。そんなお話を聞きながら江井島の子どもたちは、地域の方からたっぷりの愛をいただいているのだと感じました。業間休みなど子どもたちが訪れ、紙芝居をしあったり、友だちの作品を見たり、地域の方と言葉を交わしたりと楽しんでいるとのことでした。また保護者の方や地域の方もふらっと立ち寄られ、子どもたちの力作に目を細められているようです。

今回の作品展は2019年の3年生(現5年生)が活動をまとめたものを自治会の会合で紹介したところ、海の環境を考える啓発に活用したいと各自治会の方が作品を持ち帰り、各地域の掲示板に掲示され好評



だったことがきっかけになったようです。その時、子どもたちは自分の作品がどこの掲示板に掲示されているか掲示板巡りを行ったようですが、子どもたちの学びを広げてようとしていただける発想と柔軟性と行動力にビックリです。

また、江井島の家庭に全戸配布されている“ワンダフル江井島”（江井島まちづくり協議会発行）は江井島の地域情報だけでなく、学校の情報や子どもたちの様子等も地域に向けて発信していただいております、そのバリエーションの豊富さと内容の濃さにまたまたビックリです。この“ワンダフル江井島”には地域を單元化するヒントがいっぱい詰まっております、地域学習の題材探しや、子どもたちの探究の中でも活用できるのではと思いました。



今回取材させていただく中で、小学校の図書室ボランティアの募集をおこなったり、こども財団の支援を受けながら子どもたちの英語教室“レッツABC”等を開催したり、夏の花火大会を計画し、その中でお父さん花火師を募集したりと改めて発想と柔軟性と行動力にビックリです。

お話を聞かせていただく中で、昭和46年から当時の衣笠市長が推進した「人間優先の住がいのあるコミュニティづくり」から流れる地域コミュニティづくりにかける思いなども聞かせていただき、大変勉強になりました。

コロナ禍でも立ち止まるのではなく、人がつながる輪を広げるために、何かできないかを考え、できるように知恵を絞っていくという姿勢は学んでいかなければいけないなど考えていると、「教師と学校の失敗学 なぜ変化に対応できないのか」（著：妹尾昌俊）の内容が頭の中に浮かんできました。



改めて“いい学校はいいまちにある いいまちにはいい学校がある いい学校づくり＝いいまちづくり”は子どもも、大人も、人を育てていくことにつながるのだと感じました。江井島まちづくり協議会のみなさん、ありがとうございました。

## エッ！！ コクワガタが！！

朝、スクールガードで立っていると6年生の男の子が手に虫を這わせながら歩いてくるので、「何つかまえたん？」と聞くと、「これクワガタなん」と子どもが聞き返してきました。よく見るとなんと「コクワガタのメス」でした。「どこにおったん」と聞くと「階段を這ってた」との返事です。階段はちょっとした木立に囲まれていますが、こんなところにまだいるんだとビックリです。先週の火曜日の朝、私自身の家の網戸にも「コクワガタのオス」がとまっているのを見た時もビックリしましたが、1週間の間に2回も



「コクワガタ」にお目にかかる、朝霧のあたりにはまだこうした生き物がいるんだとちょっと嬉しくなりました。子どもたちだけでなく、保護者のみなさんや地域の方にも呼びかけながら「写メで集めた生き物図鑑」みたいなものを作ってみるのも面白いのかなと妄想が広がってしまいました。（文責：北本）